

# 令和4年度長岡まつり大花火大会に関する 長岡市・長岡花火財団 共同記者発表要旨

日 時：令和4年4月13日（水）午後3時30分から  
会 場：長岡グランドホテル2階 悠久（北）

【発表項目：長岡まつり大花火大会の実施について】

出席者：長岡市長 磯田 達伸  
一般財団法人長岡花火財団 理事長 高見 真二

（司会）

これより、長岡まつり大花火大会の実施について、長岡市と一般財団法人長岡花火財団による共同記者発表を行います。はじめに、概要について磯田市長がご説明いたします。

（市長）

今年の長岡まつり大花火大会は、通常どおり実施します。長岡花火は、長岡市民の慰霊、復興、平和への祈りの想いが込められた花火です。現下の国際情勢、社会情勢を踏まえ、今こそ長岡から世界に向けて、平和への祈り、平和のメッセージ、そして新型コロナウイルスからの復興のメッセージを発信したいと考えております。

花火大会は3年ぶりの開催となります。ウイルス禍はまだ収束を見ておりませんので、国のガイドラインや県の指導にのっとりた感染防止対策をしっかりと講じながら、安心安全な花火大会が実施できるよう、長岡市としても花火財団に対して全面的に協力し支援してまいります。

花火大会開催決定に至るまでの経緯をご説明します。花火大会の2年連続中止で、市民の皆様をはじめ、県民の皆様、全国の皆様、長岡花火のファンの皆様、そして花火の協賛者の皆様には、本当に大きな喪失感があります。花火師、会場設営、警備など大会運営に関わる全ての関係者の皆様が落胆され、飲食、宿泊、交通など多くの分野にわたり地域経済への多大な損失・影響を及ぼしているところです。こうした状況を踏まえ、長岡花火財団では、先ごろ開催された理事会で、今年8月2日、3日の花火大会はぜひ実施したい、実施するべきだとの総意で、開催の意思を固められたと聞いております。その際に、今後の感染状況によって万が一通常どおりの開催ができず、チケットの払い戻し等によって損失が生じた場合、特段の財政支援をいただきたいとのことで長岡市に求められました。長岡市としては、今年の大花火大会を何としても実施したいという強い思いを持っております。その強い決意のもとで全面的に財団を支援し、大花火大会開催に向けて頑張りたいと考えているところです。なお、通常開催を断念した時の財政支援につきましては、現在、長岡市議会等と協議しておりまして、最終的には市議会6月定例会の補正予算が議決された後に執行することになります。

私からは以上ですが、感染症対策を含む花火大会の概要・詳細につきましては、花火財団の高見理事長からご説明いただきたいと思います。

（長岡花火財団 高見理事長）

長岡花火財団においても、慰霊・復興・平和を祈る長岡花火は、今年は何としても開催したい、開催すべきであるとの思いから、4月6日に開催した理事会において、商工会議所、青年会議所、関係団体等の役員の方で構成する理事全員の総意として、開催の準備を予定どおり進める方針を決定しました。

その際に、万一直前になって緊急事態宣言などが発令されて中止せざるを得なくなった場合、財団に大きな損失が生じるため、開催準備を続けるという判断をするに当たっては、市の財政支援をお願いしなければいけないということも併せて議論したところです。これまでは、通常開催できない場合、チケット払い戻しの際の手数料はチケット額の30%としておりました。今回は、損失の担保の観点から手数料として50%を上限に差し引くということで、チケット購入者のご理解をいただきたいということも併せて理事会の総意で決定いたしました。

財団としましては、チケット購入者と市に負担をお願いするだけでなく、県や国、関係企業の皆様のご支援・ご協力もお願いしながら、万一の状況に備えてまいりたいと考えておりますが、緊急事態宣言等が出て国等から中止を指示・要請されるようなことがない限り、ぶれずに実施に向けて準備を進めてまいりたいと考えております。感染者がなかなか減らない中で、大会開催に向けて準備を進めていくことにつきましては、様々な意見や、難しい面もありますが、長岡花火の実施に向けて市民の皆様、関係者の皆様のご理解、ご支援、ご協力をいただきたいと思っております。

花火大会の開催方針につきましては、まず、開催日程、観覧席の収容率、打ち上げる花火の規模、それらは全てこれまでとほぼ同様の規模を予定したいと考えております。昨年の計画では、収容率を50%に減らすという方法も考えておりましたが、現在、国が示すガイドラインに従って、100%の収容にしたいと考えております。

また、感染症対策については、感染防止安全計画を新潟県に提出し、状況の変化についての留保条件がりましたが、計画に基づいて実施することに同意をいただきました。マスクの着用、手指消毒といった基本的な対策を徹底できるよう、声掛けのスタッフの増員、これまで設けていなかった会場の手洗いシンクの新設などの措置を行います。感染リスクが高いとされる飲食については、夏の暑い時期でありますので、熱中症対策のための水分補給はしっかりしていただきたいと思っておりますが、アルコール飲料については、会場では基本的にはご遠慮いただきたいと考えております。感染状況を見ながら、飲食のルールなど今後詳細を詰めていきたいと考えております。

来場者間の密集を可能な限り回避する対策として案内誘導員の増員や、会場への入退場時間をブロック別にずらす分散化も取り組みたいと考えております。

また、従来設けていた無料席については入場者数の管理ができないということと、今回の安全計画の中で入場者と連絡が取れる体制が必要であることから、有料化して申し込み時に住所等の連絡先を把握できるようにするとともに、エリア内の人数を入場券の数でコントロールしたいと考えております。その結果、2019年の花火大会と比べますと、各日5万人分の観覧チケットの販売が増えることとなります。有料化するのは長生橋上流、大手大橋下流の北エリアの左岸・右岸で、それぞれ従来無料席としていたところをエリア席として販売することとします。

チケットの販売スケジュールは、まず長岡市民に対する先行販売を行います。5月9日から20日まで、市政だより5月号と一緒に配布するチケット申し込みパンフレットに付いている郵便はがきかインターネットで申し込みを受け付けます。市民販売を経た残りのチケットにつきまして、6月中旬にインターネットで一般販売を行い、6月下旬に再販のサイトを設けて、キャンセルした分のチケット等を販売したいと思っております。7月中旬には、購入者にチケットを送付したいと考えております。

(司会)

それではこれより質疑応答に入ります。

(記者)

中止した過去2年と比べて今の状況はどういう変化があると考え、開催の判断材料としたのでしょうか。

(市長)

市内でも1月以降オミクロン株の感染者が出て、現在1日100人平均の感染状況です。しかし実質的にはほぼ全ての方が軽症者ということで、中等症・重症者はゼロという状況が続いております。また、3回目ワクチン接種が65歳以上の市民の8割近くまで進んでいるという状況も踏まえると、安全な状況は作れてきていると考えております。現在のような状況であれば去年とは異なって、国のガイドラインに沿って通常開催できると考えております。

**(長岡花火財団 高見理事長)**

財団の判断としても、今の状況で国のガイドラインによれば開催ができることになっていきますので、それをさらに安全のために中止するという判断は現時点ではできないと考えております。

**(記者)**

ウイルス禍なので、この先は開催するまではわからないと思いますが、例えば緊急事態宣言等が出た場合、開催可否を判断するタイムリミットのようなものはお考えでしょうか。

**(長岡花火財団 高見理事長)**

緊急事態宣言等がいつ出されるかなど、外的な要因によるため、具体的にリミットをいつと申し上げられない状況です。ただし、市に財政支援をお願いしている状況で申し上げますと、開催10日前くらいになると全ての支払い債務が発生して、最大の負担になるということと、10日前くらいであれば感染状況等もかなり把握できることから、その数日でも早めに判断できればと考えております。

**(記者)**

先ほど行われた長岡まつり統括本会議を経て、花火大会開催が正式決定されたということでしょうか。

**(市長)**

そうではなく、まず財団の理事会で開催に向けて取り組むことが決定されたということ、長岡まつり統括本会議でも同意が得られたことが大きな節目となっています。そこで求められた財政支援については予算の議決が必要です。開催する全ての条件が整うのは市議会6月定例会後ですが、開催に向けてはいろいろな準備が必要なため、今日、市議会議員協議会で説明したことを踏まえて、開催を発表したという状況です。

**(記者)**

2年連続で中止となり、その後もずっと花火大会をやりたいとおっしゃってきた中で、今の心境を伺いたいと思います。

**(市長)**

年頭の賀詞交換会でもぜひ花火を上げたいということを市民の皆様に申し上げて、その後の感染状況の変化もあって、全く雲が晴れたという状況ではないですが、2年間痛んでいる地元経済や市民生活、そしてウクライナ情勢もあって、本来の長岡花火の趣旨である慰霊や平和への祈りを今こそ発信したいという強い想いを持っております。市民の皆様には、優先販売でぜひチケットを買っていただきたいと思います。それが感染対策となり安全にもつながると思っております。もちろん全国の皆様にもぜひチケットを買って長岡花火をご覧いただきたいと思っております。

**(長岡花火財団 高見理事長)**

財団だけでは大花火大会を開催できない状況で、市の支援をいただき、チケット購入者のご理解をいただき、事業者の方にもご理解をいただかなければいけないということで、今日、市長から財団への協力を表明いただきましたので、まずはしっかりと準備をしなければいけないという思いです。いずれにしても、市民の皆様が安心していただけるような花火大会の開催に向けて緊張感を感じているところです。

**(記者)**

開催が困難になって事業収入が減額になった場合、想定される財政支援規模をお示しいただけますか。

**(市長)**

市としては、最大で4億5千万円の損失が見込まれるということで、その金額の予算を市議会6月定例会に上程したいと思っています。

また、長岡の花火大会は長岡地域だけではなくて県下全域の経済効果も大きいイベントなので、県や国に対して新型コロナウイルスに係る経済対策として支援を求めていると思っています。

**(長岡花火財団 高見理事長)**

財団としては、通常開催できた2019年までは災害対策の基金を積み上げてきましたが、過去2年で既にその基金を吐き出しておりますので、財団だけの資力で補てんできる額は非常に限られます。今回、チケット購入者に50%の払い戻しでご理解をいただけるということが唯一の収入になり、それ以外は県や国等からの支援をお願いしていくこととなりますが、市から支援をいただければ安心して準備を進められるということです。

「最大」というのは本当に直前でやめた場合の今の想定です。状況が非常に厳しくなってくれば、それを少しでも減らせる段階での判断もあり得ますが、現時点では最悪の事態を想定したお願いをしているところです。

**(記者)**

通常開催を断念した場合、例えば感染状況によっては、観覧席16万人を半分あるいは何分の一にして開催するなどということも想定しているのでしょうか。

**(長岡花火財団 高見理事長)**

中止という言葉は使いたくないと思っています。通常開催以外でどういう形でできるかということについては、昨年も分散開催としましたけれども、昨年以上のことができないかということをも市とも協議し、実施方法を検討中です。まだ詳細を申し上げられるところまで至っておりません。

**(市長)**

私としても中止はあり得ず、ぜひ何らかの形で今年は花火を上げるという想いで財団には頑張ってもらいたいと思っています。地域の分散、日の分散などいろいろあると思いますので、通常開催ができない場合でも去年よりもっと大きな形で花火を楽しんでいただけるものになるよう申し入れているところであります。

**(記者)**

開催規模ですが、ウイルス禍前と同じ規模で有料観覧席1日当たり16万人ということで、無料スペースを含めて5万席分増やした、有料チケットが5万人分増えたという説明ですが、これまでは有料観覧席は16万人分あったのでしょうか。

**(長岡花火財団 高見理事長)**

これまでは11万人分でした。それに無料席分の人数がいましたので、規模はほぼ同規模になるということです。

**(記者)**

通常開催を断念した場合の財政支援ですが、財団の損失を市の税金で賄う可能性があるということについての認識をお聞きます。

**(市長)**

財団への支援が公益性・公共性にのっとっていけば、その支出は適正であるということになりますが、いろいろな社会的な意味、長岡市民の想いを実現するという意味で公益性・公共性は十分にあるということで、長岡市として財政的な支援をしていきたいと考えています。

**(記者)**

市民からの問い合わせが殺到する可能性があるかと思われませんが、問い合わせ先の財団の電話線を増やすということはあるのでしょうか。

(長岡花火財団 高見理事長)

3年前に通常開催した際、チケットがなかなか入手できないとのことで相当数のお電話をいただいたことがあります。今回は観覧席を増やした上で市民優先のチケット販売をするため、その時に比べると、電話が混雑することはないかと思っておりますが、きちんと照会にお答えできる体制で臨みます。

(記者)

感染症対策の「飛沫の抑制の徹底」で、声掛けスタッフの増員ということがありますが、スタッフの増員だけでしょうか。例えばポスターを作るというようなこともあるのでしょうか。

(長岡花火財団 高見理事長)

チケットの購入者に対しては、申し込み時やチケットの送付時などコンタクトの機会があります。そういった中で周知していきたく思いますし、当日にマスクの着用が不十分な方がいらっしゃった場合は、声掛けという手段が必要だと思っておりますので、あらゆる手段を通じて呼びかけていきたく思います。ぜひメディアの皆様にもご協力をいただきたいと思います。

(記者)

感染症対策を作る上で、医師へのヒアリングなどを行いましたか。

(長岡花火財団 戸田事務局長)

医師へのヒアリングはしていませんが、イベント会場などの感染症対策に秀でているアドバイザーから他の事例、状況等を確認していただき、その内容を感染防止安全計画に反映しております。ただ今後、医師会などにもご相談したいと考えております。

(記者)

観覧席について、これまで無料席だった部分を有料席に変更するということですが、もともとの無料席は何席あったのでしょうか。

(長岡花火財団 高見理事長)

無料席は人数制限しておりませんので、密になれば相当数入っていたことになります。今回は、1人1.5㎡の面積が確保できる数のチケットを限定して販売したいと考えております。

(記者)

フリーエリアは、従来どおり自由に入って見られるところなのでしょうか。

(長岡花火財団 高見理事長)

はい。花火の打ち上げ場所からそこまで離れますとそれほど密にならないであろうという想定のもとに、従来どおりのフリーエリアとしております。

(記者)

2年連続中止と分散開催という話が出ましたが、昨年と一昨年は中止で、分散的な打ち上げを行ったということでしょうか。

(長岡花火財団 戸田事務局長)

代替という形で去年は各地域で花火を打ち上げましたが、あくまでも花火大会としては中止ということです。それは、密を作ってはならない、観客を入れるならその方々を安全に管理しなければならぬということができなかったから中止としたわけです。そのため昨年場合は、地域を分散して花火を打ち上げ、できる限り地域の方々にだけ見ていただける手法をとりました。

(記者)

市長にお尋ねします。ロシアによるウクライナへの軍事侵攻が継続する中で、長岡花火が世界の平和に対してどのような役割を果たせるかということについて、改めてお言葉をお願いします。また、花火大会について、例えば規模を縮小して開催するということも選択肢としては

なくはないと思いますが、そういったことは検討されたのか教えてください。

**(市長)**

まず1点目ですが、ご存知のように長岡は空襲で多くの方々が亡くなっております。全ての市街地が消失したという空襲を経験した町です。今のウクライナの状況は他人事とは思えません。それは誰が良い悪いということではなくて、戦争自体、それによって犠牲が出ること自体が許しがたい、なくすべき事象だと思っております。そういう観点から、声をしっかり上げていくことが長岡市にとって一つの責務だと思います。慰霊、復興、平和への祈りということが、長岡花火の大きなメッセージであり、まさに花火大会そのものだったわけです。ぜひ長岡花火を打ち上げ、それを見ていただく方に平和を求めるメッセージを広げていきたいと考えています。

2点目は、実際は花火財団での検討になりますが、前々から私は感染リスクをできるだけ小さくしたいということをお願いしてきました。実際のところ花火を上げると、人が集まります。例えば打ち上げ時間を15分にしたら安全になると思いますが、それは長岡まつり大花火大会ではありません。従来形で打ち上げて、しっかり感染対策をしていけばベストであり、その想いで準備に入りたいということですが、ご指摘のようにいろいろな問題が生じた時には臨機応変に、財団でも考え長岡市の方でも考えていきたいと思っております。

**(記者)**

長岡花火には県外からも多くの方が来て市内のホテルも埋まると思いますが、宿泊施設との感染対策の連携等がありますか。

**(長岡花火財団 高見理事長)**

宿泊施設や交通機関との連携は図っていきますが、それぞれの施設によって感染対策の仕方のガイドライン等がありますので、基本的にはそれぞれの施設できちんとガイドラインに基づいた対応をしていただくことになると思います。

**(司会)**

以上をもちまして共同記者発表を終了します。ありがとうございました。